



“よねやま”から広がる新しい世界 ②

カンボジアからのうれしい便り



宇都宮東 R C
(第 2550 地区 栃木県)

カウンセラー

辻 裕司 さん

新年のメールで再び結ばれた縁

私は何人もの米山奨学生のカウンセラーを担当してきて、サ・ソチア君もその一人でした。彼はいつもニコニコと笑顔で人当たりが良く、クラブの会員と積極的に交流を図っていました。私は、これまでの奨学生と同じように自宅に招き、行事に誘い、また、家族連れでの苦しい生活を送っていた彼のため、会員の経営するスーパーマーケットの仕事を紹介したこともありました。

一番大変だったのは、指導教員の病気が影響して、彼の論文の完成が遅れ、博士号を取ることができないとわかった時です。指導教員を訪ねて、面倒を見ることを約束してもらった上で、私からクラブに継続支援をお願いしました。幸いにも理解が得られ、クラブ独自で1年間奨学金を支給。期待に応え、彼が博士号を取得した際には、全員でお祝いしたのは言うまでもありません。

その後、カンボジアに帰国した彼からは、たまに手紙やはがきが届きましたが、現地の郵便事情が悪く返事が届かなかったり、こちらが多忙で連絡できなかつたりして、音信は途絶えがちでした。それが今年の初め、新年

のあいさつを兼ねた写真付きのメールが届き、電話もかかってきました。「カンボジアの大学で学生に日本語を教えたり、日本文化を紹介している」との報告を受け、大変うれしく、ありがたく思いました。近々カンボジアに会いに行くと約束しましたが、彼も、われわれと再び交流できることを期待してくれているようです。

夢や希望を語り合う訪問に

私は地区米山記念奨学委員長として、次年度で3年目を務めることとなりますが、この仕事は大変な責務と事務作業量を抱えています。より良い体制づくりが急務と考え、今年度から、選考、学友、寄付増進の各小委員会を設け、チームで分担するようになりました。新体制を軌道に乗せるべく目の回るような忙しさで、これまで世話した学友に連絡する余裕がないというジレンマもありますが、彼らをお世話した経験が、この委員会の仕事に生かされているのは確かです。奨学生たちがどのような生活をしているかわかりますし、世話クラブやカウンセラーに、具体的なアドバイスをすることができます。何より私自身、カウンセラーをやったからこそ、こうして米山と離れられなくなってしまったのだと言えます。

内戦で壊滅的被害を受けた母国の教育現場で、ソチア君が頑張っていることは、われわれにとっても励みです。彼の挑戦にも手を差し伸べられたら、と考えています。彼の元を訪ね、互いの夢や希望を語り合いたいと思います。彼が指導した学生たちを米山奨学生として受け入れる、そうした未来も、そう遠くない話かもしれません。



正月にソチア君の家族を招いて



ソチア君のセンターで書道を学ぶ学生たち

カンボジアから届いた一通のメール。長く連絡できなかったことをわびつつ、日本への留学を希望する若者たちを指導している、という近況がづらわれていました。差し出し人は、カンボジアのパニャサストラ大学に勤める米山学友のサ・ソチアさん。受け取ったのは彼のカウンセラーで、第 2550 地区米山記念奨学委員長を務める辻裕司さんです。一通の便りをきっかけに浮かんださまざまな思い出、新たな交流の始まりについて語っていただきました。



米山学友
サ・ソチアさん

出身：カンボジア
奨学期間：2009 - 11
学校名：宇都宮大学大学院

ロータリーの支援でかなった夢

ロータリーとの出会いは留学前。長い内戦が終わっても再建が進まないカンボジアの状況を見て、「第二次世界大戦後に奇跡の復興を遂げた日本について学び、母国の発展に生かしたい」と思い、大学で専攻した数学を学ぶ傍ら、日本語の勉強を始めました。そして、岡山県の高梁ロータリークラブ（RC）がカンボジアに設立した小学校で2年間、日本語を教え、その後、高梁RCのおかげで、日本に留学することができたのです。

宇都宮大学大学院の博士課程に進学し、今度は米山奨学生として、再びロータリーの支援を受けました。最も心に残ったのは、例会で学んだ「四つのテスト」です。宇都宮東RCの皆さんと交流するうちに、これが重要な経営理念であることに気づき、今の仕事でもこの言葉を心がけています。カウンセラーの辻さんからは、“第二の親”と思えるほど、親身に面倒を見てもらいました。お正月に自宅に招いてもらい、旅行に連れて行ってもらったり、問題解決のアドバイスを受けたりもしました。博士号を取得できたのは、辻さん

と宇都宮東RCの皆さんのおかげです。

自らサポーターとなり社会に貢献を

卒業後に帰国し、在カンボジア日本国大使館に勤めた後、2014年9月から、パニャサストラ大学の日本語・ビジネス研修センター所長兼大学教員として勤務しています。日本で経験したことを学生たちに伝えて留学を後押しし、日本とカンボジアとの友好を深める懸け橋の役割を果たす、やりがいのある仕事です。

現在、当センターで日本語を学ぶ学生は約250人ですが、今後も増えていくと思います。いずれは当センターを高度な人材開発センターへと成長させると同時に、学生たちと一緒にさまざまな社会貢献活動をしていきたいと考え、「日本カンボジアソーシャルデザイン」という学生クラブを立ち上げようとしています。

これまで、ロータリーの皆さんからサポートを受けてきた私が、これからはサポーターとして、社会のため、次世代のために何ができるかを考えています。「自分や家族の幸せだけでなく、ほかの人の幸せも考えなければ、真の幸せではない」。皆さんから学んだことを胸に刻み、実践していきたいと思っています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または“よねやまだより”についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



ミャンマーに米山学友会が誕生！

2月25日、ミャンマー米山学友会の創立総会がヤンゴン市内で開かれ、ミャンマー出身の米山奨学生・学友22人を含む約60人が出席しました。初代会長に就任したタンシンナインさん（2003 - 05 / 東京調布RC）は東京米山ロータリーEクラブ2750の会員であり、第2750地区をはじめ日本から多くの会員が出席したほか、2014年に旭日小綬章を受章したミャンマー初の米山奨学生、アウン・チョウさん（1962 - 66 / 東京北RC・東京南RC）も家族とともに駆けつけました。タンシンナイン会長は「日本語を学ぶ学生への奨学金、貧しい小中学校への支援なども行っていきたい」と抱負を語りました。



小沢一彦理事長（左）とタンシンナイン会長